

ビデオガイドブック

袋井市指定無形民俗文化財

岡山の山の神祭り



岡山の山の神祭り保存会

ごあいさつ

このたび岡山の山の神祭り保存会では、ふるさと文化再興事業「地域伝統文化伝承事業」の委嘱を受けて、記録映像と解説パンフレットの作成をいたしました。

子どもたちによって毎年12月8日の早朝に行われる山の神祭りは、岡山に古くから伝えられてきたものです。近年、生業や社会や家族のあり方が変わり、ふだんの暮らしは合理化し、古くからの伝統的な行事は消えつつあります。山の神祭りのような民俗行事は、地域の生活に密着して育まれてきた伝統文化であり、それを後世に伝えるのが、現代を生きる私たちの使命ではないかと考えています。

今回の記録映像によって、郷土の歴史と文化を振り返るとともに、伝統の素晴らしさを広く人びとに伝えたいと思います。また、祭りの保存へのよりいっそうのご理解をいただく機会となれば、さらに大きな意義があると考えます。

この記録映像、パンフレットの作成にあたり、ご指導いただいた制作委員、並びに多大なご協力をいただいた地域住民の方がた、静岡市、牧之原市の関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成19年3月吉日

岡山の山の神祭り保存会会長 岡田 安弘

§	もくじ	§	
ごあいさつ	1	地図・アクセス	2
岡山の歴史と民俗	3	山の神の由来	6
山の神祭りの準備	7	山の神祭り	11
伝承のあゆみ	15	各地の子どもの民俗	18



アクセス

車：袋井ICから車で20分 電車：JR袋井駅から車で15分
 バス：JR袋井駅から横須賀車庫行き及び大東支所行きで大庭バス停下車、
 東へ徒歩約1キロ（静鉄ジャストライン）
 JR袋井駅から海洋センター方面行き岡山バス停下車（メローバス1日3本）

岡山の歴史と民俗

「岡山の山の神祭り」を伝承している袋井市浅名の岡山地区は、JR 東海道線袋井駅より南へ 3km ほどに位置し、小笠山西側に広がる沖積低地を望む舌状台地の末端に形成された集落です。袋井市南部の多くの集落が沖積低地内の自然堤防という微高地に立地しているのに対し、岡山の集落は旧馬伏塚城の曲輪（城内で建造物を建てる敷地などの区画）を踏襲しているため、高燥で地盤も安定し、居住環境としては大変に優れています。また、縄文時代の海進（海岸線が陸地に近づく）に端を発する潟湖（ラグーン）が、宝永 4 年（1707）の東海地震で地盤が隆起するまで見られ、近世初頭までは、現在の集落が立地する台地の間近まで、水面が及んでいたと思われます。

岡山地区は、中世には浅羽庄岡郷に含まれ、戦国時代には馬伏塚城で合戦があり、武士達による慌ただしい動きや荒い怒声が響いた日々が続きました。その後、馬伏塚城の城兵（小笠原氏家臣）の末裔（子孫）と伝える数軒により、村が開かれたと伝えられています。



山の神を祀る通称「呑吉山」

岡山村は江戸初期には横須賀藩領となり、幕府領を経て旗本齊藤氏領となりますが、村高（税金計算の基準となる米などの生産量）は「元禄高帳」「天保高帳」「旧高旧領」ともに 85 石余と記され、大きな変化は見られませんでした。

享和 2 年（1802）に出された東海道袋井宿の助郷（宿場に人足を出す村）役の免除の願書などから、江戸後期には東海道の物流のため、多くの人馬を提供していたことをうかがい知ることができます。

明治維新直後は静岡藩に属し、横須賀に置かれた勤番組頭（交代で勤務する村役人）の管轄となります。江戸期と同様に庄屋・組頭・百姓代などの村役人によって村が治められました。しかし、明治 4 年（1871）7 月の廃藩置県にともない静岡藩は静岡県となり、中泉（現磐田市）に置かれた郡方奉行による地方行政が始まりました。さらに、明治 5 年（1872）4 月には、現在の静岡県西部は浜松県として編成しなおされ、郡方奉行は郡政役所に名称変更され、庄屋組頭の職名は戸長・副戸長に改められました。そして、明治 6 年（1873）には郡単位の再編成がなお進み、浜松県第二大区第二十九小区に属することになりました。当時の戸籍には、戸数 34 軒、人口 134 人とあり、こじんまりとまとまった村だったことがわかります。

明治 9 年（1876）には浜松県の廃止にともない、善能寺村ほか 3 カ村と合併して浅名村となり、その後、諸井村などと合併して上浅羽村（明治 22 年）となります。昭和 31 年には浅羽町に再編され、現在は袋井市に属しています。「岡山」の名は、袋井市浅名の通称地名として人びとに親しまれています。

岡山地区の人口は、第二次世界大戦前には 30 戸と近世以来大きな変化はありませんでしたが、現在は新しい住民を迎え 70 戸を超えています。

このように歴史ある岡山に、江戸時代から子どもの手によって行われてきたのが山の神祭りです。地区の行事を子どもの時から担うという伝



馬伏塚城本丸跡 諏訪神社が祀られている。



上左・呑吉の墓 人びと救済のために即身仏になったといわれる。
上右・呑吉山に点在する集落の墓地。現在は寺墓地にうつしつある。
左・浄土宗了教寺 馬伏塚城主だった小笠原氏の菩提寺である天嶽寺を再建したもの。

伝統的な民俗行事のために、地区の結束は固く、犯罪などのない穏やかで暮らしやすい地区となっています。地域民の民俗行事への関心も高く、近年この地に移り住むようになった人びとも率先してこの行事に参加し、地域の結束をさらに強固なものとしています。

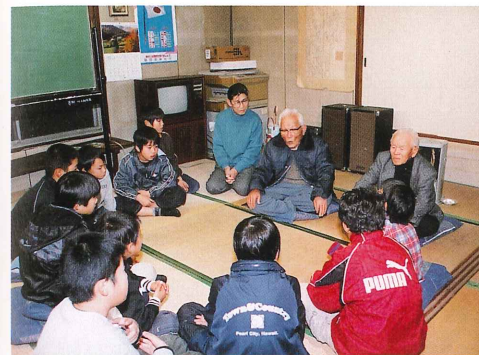
村内には、浄土宗の了教寺と諏訪神社があり、山の神を祀る山は、通称「呑吉山」と呼ばれています。この一帯は、集落の墓地として利用されてきました。呑吉は生涯人びとの救済に尽力した僧侶で、即身仏となってその意思を全うしました。この住民の先祖が眠る呑吉山が、人びとに心の安らぎをもたらしてきたことも、山の神祭りの伝承に大いに反映していると思われます。(水野雅彦 記)



現在の岡山の水田 豆や麦を栽培する畑に切り替わっている。

山の神の由来

山の神の由来について、山の神を祀る山を所有する川上重さん(大正5年生まれ)は、次のように語り伝えています。



古老から山の神の伝承語りを聞く子どもたち

山の神祭りは、江戸時代後半から始まったといわれています。

岡山は後ろが山で、前は沼地でした。そこで、先祖たちは、山を開墾して畑にし、ドボドボでヨシやマコモだらけだった沼地を開墾して田んぼにしました。ところが、村を

伐って怪我をしたり、材木の下敷きになったり、疲労から病気になったりと、不幸が村を襲いました。

それを見ていた子どもたちは、「お父さんが苦勞して働いているのに病気になった。何とかならんかいなあ」と、親が丈夫になるようにと、山の神を祀ることを考えました。しかし、どうすればよいのかわかりません。そんなとき、庄屋をしていた川上さんの先祖がそれを聞いて、子どもがそんなに親を心配しているのならと相談にのり、山の神の祭り方の話し合いに加わりました。

その結果、山の神の祠の位置は川上家の山の中に定め、祠は子どもにでも出来るようにと、竹で柱を作り藁で屋根を葺く形にすることに決めました(この祠は、遠州地方特有の地の神の祠と同型です)。ついで、費用は村を勧進して集めることにし、深夜、寝静まると「山の神の勧進やい。お米なら1升、銭なら50銭」と掛け声を掛けてまわることになりました。すると、子どもが生まれた家では、山の神の仲間にしてもらおうと、3升も米を出してくれるようになり、山の神の仲間に入ることを皆が望むようになりました。

こうして山の神の祭りは始まり、江戸時代から270年余も続いてきました。

山の神祭りの準備

ここでは、平成 18 年の山の神祭りの準備の様子を記録します。

事前準備



山の神の地主家への挨拶

た。ついで、この 1 年の間に誕生した男の子のいる家も確認しておきます。男の子はやがては山の神祭りの一員になります。生まれた年から、仲間になるようにと双方で確認しあいます。

山の清め



山の神までの参道を掃除する

山の神の祠は毎年新調の竹藁製です。古い祠を取り去って新しい祠を立てるべく、オヤが鎮座地を掃き清めます。祠は急な坂を登りきったところにあ

平成 18 年は、秋の台風で参道になぎ倒された大木があり、それを前もって保存会員が取り去り、参道の階段も整備し直して、子どもたちが掃除しやすいように前準備をしておきました。

また、1 か月前には岡山全戸に回覧板をまわし、山の神祭りへの協力をお願いします

12 月 2 日（土）、子どもたちと父兄、そして保存会員が岡山の公会堂に集まります。まず、オヤビト（最年長者をオヤビトあるいはオヤと呼ぶ）にあたる 6 年生全員が山の神の地主家へ挨拶に行きます。それがすむと、いよいよ山の神鎮座地や参道の掃除が始まります。

りますから、そこまでの参道の整備もします。祠などの重要な部分の担当はオヤ、5 年生以下が参道を掃除します。行事は深夜なので山中は真っ暗闇です。足元の安全確保のために十分に掃き清めます。

次は竹の用意です。オヤが山の神の登り口にある竹藪の竹を伐ります。竹はオヤ・ナカ・コと 3 種類で、一番大きいオヤ竹は 1 本、ナカ竹とコ竹はそれぞれ長さが異なり 3 本ずつ（定数はない）で、オヤ竹は 6 年生が、ナカ竹は 5 年生が、コ竹は 4 年生以下が持ちます。昔は雄竹を使いましたが、今は雌竹が使われます。

平成 18 年はオヤの父兄が長老から教わって見本の祠を作っておきました。それを使って加藤朝治さんの手ほどきを受けて、建て前の練習もしました。

祠の準備

掃除が終わると公会堂に戻り、今年の新しい祠を作ります。これはオヤが担当します。保存会員に教えてもらい



勧進に使う雌竹の用意



長老から祠の建て前の指導を受ける



保存会員の指導で祠を作る



屋根を葺いて仕上げる



輪注連の用意



保存会員から注連縄作りの講習を受ける

ながら、竹と新藁^{しんわら}を使って仕上げます。骨にする竹や藁は前もって保存会員が準備をしました。

まず、骨を作ります。ほどよい長さの節と節の間を切り取り、棟部^{むねぶ}を作ります。棟が出来ると、柱までの全体の長さを定めて竹を切ります。切った竹をバーナーを使って曲げ、柱の部分を確保します。

骨が出来あがると、屋根にする藁を棟の部分に置いて切り取った竹で挟んで締めます。同じように、棟の前後にも竹を置いて締めます。棟に藁束を置いて形を整えると仕上がりです。

さらに、竹につける輪注連^{わじめ}の用意もします。輪注連はすでに保存会員や父兄によって用意されていて、これに紙垂^{しで}をつけて出来上がりです。

終了後、注連縄作りの講習会が行われました。子どもたちは保存会員の指導を受けて注連縄作りに挑戦しました。

これらのほか、神事用のお神酒入れと盃^{さかずき}の用意もあります。竹で作る伝統的なもので、

これは保存会員が用意しました。これらの準備は、昭和初期には前日の7日に行われました。

当日の準備

当日は、学校が終ると全員が公会堂に集合します。まず、山の神の祠^{ほころ}の準備です。子どもたちは学校があるため、祠の建て前と注連縄張り^{しめなわ}は先に保存会員や父兄がしておきました。そこで、祠担当のオヤは祠に紙垂^{しで}をつけ、ほかの子どもたちは参道に張られた注連縄に紙垂^{しめなわ}をつけました。

次は2日に用意した輪注連を竹に取り付けます。これで事前準備はすべて終了です。

このほか、神事用の神饌^{しんせん}の準備、新生児用の祝儀袋^{しゅうぎぶくろ} (500円) の用意もあります。神饌は、お洗米^{せんまい}・塩・煮豆・豆腐^{とうふ}・お神酒^{みき}で、これらは伝統的には子ども自身が用意するものですが、学校もあり子どもにかわって父兄が用意しました。また、勧進^{かんじん}に使う乳母車^{うぶぐるま}と米袋(白米用と玄米用)の用意もあります。乳母車は、持っている家から借ります。



オヤが祠に紙垂を垂らす



下級生は注連縄に紙垂を垂らす



勧進用の竹に輪注連をつけるオヤ

山の神祭り

深夜の集合

12月8日午前0時、子どもたちは山の神近くの辻に集まりました。ここで、神事に使う神饌^{しんせん}の準備をし、6年生のオヤを先頭に5年生以下1年生まで順に並んで山の神の参道を登ります。

山の神の神事

神事の責任者はオヤです。まず、山の神に神饌^{しんせん}をあげます。煮豆や豆腐^{とうふ}などの神饌^{しんせん}を供え終えると、オヤの「今から参拝^{さんぱい}します」の掛け声で一斉に柏手を打ち、型通りのお参りをします。参拝^{さんぱい}がすむと直会^{なおらい}です。オヤから順に、やつこ豆腐・煮豆・お神酒^{みき}を最後の1年生まで送ります。最後にもう一度参拝^{さんぱい}し、いよいよ勧進^{かんじん}の出発です。



左・神饌の用意
中・全員揃って参拝
右・オヤから順次直会

勧進に歩く



仲間入りを促してお祝いを贈る

仲間入りを促してお祝いを贈る
くね」と、勧進の子どもたちに祝儀^{しゅうぎ}が手渡されます。すると、皆は手に持っている竹を振って答えます。これはお礼の意味です。ついで、将来の仲間

勧進は地区の上の方から下の方へ向かって行います。

今年の最初の家は、新生児がいる家です。「山の神の勧進やい。米なら1升、銭なら50銭」と大きな声を掛けながら玄関口に立つと、男の赤ちゃんを抱いたお母さんが出てきて、「この子をよろし

なってもらうために「大きくなったら山の神の仲間になってください」と、オヤからも祝儀が渡されます。

次の家でも玄関口に立つと「山の神の勧進やい。米なら1升、銭なら50銭」と大きな声を掛けます。家の人が出てきて「ごくろうさん」と、用意しておいたお金やお米を手渡してくれます。お金は500円以上、お米は1升です。

こうして、次から次へと順次地区をまわります。お米がどんどん集まり、乳母^{うぼ}車^{ぐるま}が重くなります。そこで、地区の真ん中くらいまで来ると一旦公会堂に戻り、休憩をします。お母さんたちがジュースの用意をしておいてくれました。

集まった米をおろして15分ほど休むと、竹をもってまた出発です。竹はジャンケンで勝った者から順に交代で持ちます。交代する場所は適当に決めます。また、乳母車を引く人に特に決まりはなく、希望者が引きます。この役は人気があって希望者が集まります。が、どんどん重くなるため小さい子には無理です。昔はリヤカーが使われましたが、道路が舗装^{ほそう}された上、乳母車は小回りが利いて扱いやすいので、乳母車に変えました。

勧進の経路図





上・勸進の子どもたち 勸進が
終ると竹を振って次の家へ。
中左・米は杓で1升いただく
米の量は昔から変わらない。
中右・玄関に用意された勸進用
の米 白米の家もあれば、玄米
の家もある。
下・たくさんの米が集まった乳
母車 重くなるので途中、公会
堂で休憩をする。

深夜の0時から始めますが、年ね
ん家数が多くなり、終了の時刻は遅
くなってきました。南の方の家に行
くと、大きな声で「山の神の^{かんじん}勸進や
い。米なら1升、銭なら50銭」と
叫んでもなかなか起きてくれませ
ん。毎年起きてくれない家もありま
すが、迷惑でも必ず声を掛けます。
声を掛けないのはハブセにしたこと
になるからです。

中には、袋にお金を入れてドアノ
ブに掛けておいてくれる家もありま
す。こんな時には、起こさないよう
に小さな声で声を掛けます。

勸進の取りまとめ

終ると、全員一旦公会堂へ戻りま
す。オヤが用意したカップ^{めん}麺を食べ
て冷えた体を温め、すいたお腹を落
ち着かせます。その後オヤは使った
竹を山の神の登り口まで納めに行き
ます。

ひと休みすると、いよいよ勸進で
集まったお金や米の計算が始まりま
す。お米は父兄に買い取ってもらい
ます。今年は1kg400円で買ってもらい、換金した米は8,000円になりま
した。お金は32,600円、これに祝儀^{しゅうぎ}をたすと総額が出ます。総額から神饌^{しんせん}
の代金など経費を引いて、伝統的な分配率に基づき全員に分配します。1年
生から順次もらい、もらうと一目散に家へ帰ります。眠気が最高潮なのです。
こうして、ようやく徹夜の祭りが終わりました。数時間後には登校^{てつや}しなければ
なりません。



全ての勸進が終って竹を納めるオヤ



勸進が終って夜食をとる子どもたち



真剣な面持ちで勸進の集計をするオヤ

伝承のあゆみ

岡山に伝えられる山の神祭りは、伝承によれば江戸後半から続いているといわれています。古い時代の実態は記録もなく不明ですが、大正末期から昭和になってからのあゆみは、地域の人びとの記憶に鮮明に残っています。その記憶をここに留めておきます。

これは、地域の男の子が深夜に行う行事として長年続けられています。平成になって昼間の行事にしたいという動きがありましたが、山の神の地主家、長老や自治会の代表、父兄が集まって話し合い、従来通りの時間帯で続けることで話し合いは全員一致をみ、今日に至っています。

岡山のこの祭りは中断されることなく続いてきましたが、昭和19年(1944)12月7日午後1時35分に発生した東南海地震の年だけは、中止されました。旧浅羽町では、全半壊の家屋が全世帯の約5割を占めるとい^{じんたい}う甚大な被害に遭ったのです(『静岡県史』別編2自然災害史)。さらに、追いつちをかけるように夕方にはB-29も容赦なく来襲し、男手を兵隊にとられた人びとは、眠れぬ夜をすごしました(『図説 浅羽町史』)。

ついで、平成4年(1992)には雷雨のため延期をやむなくされ、12日に変更して実施されました。

以上の2回以外は、例年12月8日の深夜に地区の男子によって祭りは続けられてきました。なお、平成6年12月9日にはNHKの番組「列島リレー」で全国に紹介されたこともありました。

平成17年2月には浅羽町の無形民俗文化財に選ばれ、袋井市と合併後は袋井市の無形民俗文化財となりました。今回は平成18年度ふるさと文化再興事業「地域伝統文化伝承事業」の委嘱を受けて、映像記録作成を行うことになりました。

山の神祭りは、地域のみなさんのご理解とご協力で今日まで滞ることなく続いてきましたが、近年の少子化はこの祭りの存続にも影響を与えています。そこで、少子化による祭り存続の危機を乗り越えるために、平成2年頃から保存会を結成する動きが始まり、平成16年に正式に結成されて山の神祭りを応援することになりました。会則は次ページのようです。

岡山の山の神祭り保存会会則

- 第1条(名称) この会は岡山の山の神祭り保存会と称す
- 第2条(目的) 岡山に古くから継承されて来た子供達中心の、山の神祭り行事を保存し正しく継承して行くことを目的とする
- 第3条(会員) 岡山地区の全世帯を対象とする
- 第4条(事業) 山の神祭り行事を正しく行うことに関連する質問・相談事に応じ解決に当たる
- 第5条(役員) この会に次の通り役員を置き、選出は会員相互の互選による
- 1、顧問1名、会長1名、副会長1名、理事若干名
 - 2、顧問は山の神の祠のある山の地主様とする
 - 3、役員の任期は一期3年とし再選は妨げない
 - 4、役員の任務
 - 会長は会を総括する
 - 副会長は会長を補佐し会務に当たる
 - 幹事は会長・副会長を補佐し会務に当たる
- 第6条(機関) この会に総会及び理事会を置く
- 1、総会は会の最高決議機関とし年に1回又は必要に応じ会長が招集し会の運営方針等審議決定する
 - 2、理事会は必要に応じ会長が招集し審議事項を協議決定する
- 第7条(会費等) 必要に応じその都度理事会、総会等で協議決定し徴収する
- 第8条(会計) 理事の中から1名役員の互選により決定し会計処理を行う
- 第9条(会則の改正) 会則の改正及び変更は総会の決議を以て行う
解釈に疑義が生じた場合は理事会で協議決定し、総会にはかり承認を得なければならない
- 第10条(事務所) この会の事務所は会長宅とする
- 第11条(細則) この会則は平成16年12月1日より執行する

コラム 昭和初期の山の神祭り

当日の準備が終ると一旦家に帰り、午前2時頃地区の中央にあたる秋葉灯籠の前に集合しました（山の神の入り口に集合した時代もあり、時代によって集合場所は異なりました）。

その頃は村に街灯などなく、真っ暗闇で1年生は怖くて一人では歩けませんでした。そこで、ホンオヤは提灯を持って1年生を迎えに行きました。当時は、最上級生をホンオヤ（本親）、次をフクオヤ（副親）、そのほかをオヤダケ（親竹）・ナカダケ（中竹）・コダケ（小竹）と呼びました。

まわり終えるのは、明け方の6時頃でした。最後の加藤さんでは、火鉢や炬燵で暖をとり、熱いお茶や甘酒、焼き餅などの暖かなものをご馳走になりました。オヤの家が最後になることもありました。

使い終わった竹で加藤さんに盃を作ってもらい、これをもって山の神に参拝し、お神酒を飲んで真っ赤な顔をして登校したこともありました。その頃は、子どもが酒を飲むことにやかましくない時代だったそうです。

学校から帰ると全員がオヤの家に集まり、勧進に使った竹を山の神に納め、勧進で集まった米を米屋で換金しました。そして、新生児の祝儀分を引いて残りをオヤの人数で割り、そこから順次1年生まで配ります。ほとんどがオヤの総取りで、誰もが早くオヤになりたいと思ったそうです。この米屋での換金は、昭和40年（1965）くらいまで続きました。

活動の記録は昭和60年（1987）からつけています。ちなみに、昭和61年の勧進の合計は、お金が10,820円、白米1.5kg、玄米58.5kgで、1升350円で換金して14,000円になり、合計24,820円でした。

参加者は総勢7人で、これを規定の分配率で分配したわけです。

各地の子どもの民俗

有東木のギリッカケ



静岡市葵区有東木に伝わるこの行事は、本来は小正月の行事ですが、今では1月31日に行われています。集落の1軒1軒を、ヌルデの木で作るギリッカケといわれる木片を打ちながらまわり、悪霊を払います。

大磯の神送り



牧之原市片浜の大磯に伝わるこの行事は、2月と12月の8日に行われる、コト八日といわれる年中行事の神送りの行事です。笹竹をもって1軒1軒払ってまわり、海に悪霊を送ります。

大楽地のオンベコンベ



磐田市下野野の大楽地に伝わるこの行事は、盆の精霊送りの行事です。手にした笹竹に、施餓鬼旗を集めて村中をまわります。集め終るとこの竹は、隣の集落との境まで運び、谷底におさめます。

大倉戸のチャンチャコチャン



新居町大倉戸に伝わるこの行事も、コト八日の神送りの行事です。旧東海道の東西の端から端まで、バント船と呼ばれる椿の船を引きずり、船に乗った人形を竹で叩いて悪霊を送り出します。

（吉川祐子 記）

制作委員会

委員長	吉川祐子	中京女子大学子ども文化研究所客員教授
委員	岡田安弘	岡山の山の神祭り保存会会長
委員	岡本寛二	袋井市文化財保護審議会委員
委員	水野雅彦	袋井市教育委員会生涯学習課
委員	松本稔章	静岡県教育委員会文化課指導主事

制作協力者

川上 重	加藤朝治	澤田淳一	山内勝雄	溝口吉彦
杉山重好	川上和佳	今泉直也	水野宏信	加治 敏
石部勇貴	鈴木佑貴	井口皓史	鈴木優仁	川上裕斗
鈴木拓美	水野翔太	川上慶士郎	今泉知久	今泉智子
水野和彦	水野みさ子	加治寛樹	加治美智代	松下安宏
松下半汰	河津みどり	水野博康	石部健一	沢田晴久
今泉里治	ほか岡山地区の皆さん			
牧之原市教育委員会	静岡市教育委員会	袋井市教育委員会		

このビデオは、平成18年度ふるさと文化再興事業「地域伝統文化伝承事業」の委嘱を受けて「岡山の山の神祭り保存会」が制作した。

岡山の山の神祭りビデオガイドブック

岡山の山の神祭り	発行 2007年3月31日
制作協力	袋井市教育委員会生涯学習課
	〒437-1192 静岡県袋井市浅名1028番地
	TEL <0538> 23-9269 FAX <0538> 23-9309
制作委託	(株)クラフト 静岡市駿河区曲金5-11-27
発 行	岡山の山の神祭り保存会 静岡県袋井市浅名